



247

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年1月26日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

味ぽん誕生から61年 担当者たちの苦悩とひらめき

26日(日) = 1、3面



迫る

高度成長にわき、東京五輪が開かれた1964年。今では国民的存在ともいえる調味料「味ぽん」＝写真＝が生まれました。

67年から全国販売を始めましたが、すぐに壁にぶつかります。西日本では水炊きなどでポン酢しょうゆに具材をつけて食べる文化が根付いていましたが、東日本では鍋料理の汁に味が

ついているのが一般的。東京・築地の場外市場でPRしますが反応は鈍いものでした。あきらめかけたころ、味ぽんを使って実際にたべてもらう「実演」にトライしました。すると「うまい」と好反応でした。次第に売り上げを伸ばし、68年にはテレビCMをスタートさせます。

時代は好景気で、カラーテレビも普及、家庭の食卓に味ぽんが並ぶようになり

ます。

70年代には売り上げが飛躍的に増加します。でもさらなる「悩み」が社内を覆います。というのは、鍋料理が広く食される「冬」しか売れなかったのです。

ちょっと「プロジェクトX」のような物語で、新感覚の「迫る」になります。執筆は社会部中部グループの町田結子記者です。

日韓国交正常化60年 ～どうなる日韓関係～

26日(日) = 総合面

今年、日本と韓国が国交を結んで60周年になります。この間、両国は対立と協調を繰り返しながらも、「隣国」として未来志向の関係を結ぶために外交努力を重ねてきました。

尹錫悦(ユンソンニョル)大統領の逮捕で韓国内の政治が混乱する中で、日韓関係はどうなるのでしょうか。これまでの歩みを振り返り、課題を解説します。



日韓首脳会談の様子＝東京都港区で1998年10月8日撮影



論点

海を渡る球児たち

高校球児が日本の大学やプロ野球を経ず、米国の大学や大リーグを目指す動きが生まれていきます。なぜ球児は海を渡るのでしょうか。

29日(水) = オピニオン面

メディア対応などで選手をサポートするナイフ・スガイ・パートナーズ社長の木下博之さん、留学経験があり若い起業家の大槻

祐依さん、スポーツ留学の事に携わるアスリートブランドジャパン代表の根本真吾さんに、背景などを聞きました。

特集ワイド 箱根駅伝「給水おじさん」 どんな人？

27日(月) = 夕刊2面



お正月の昼間、お茶の間で驚いた人も少なくないでしょう。3日の箱根駅伝の復路。レース終盤9区の横浜駅前(横浜市)の給水地点に、白髪の紳士が登場したのです。その正体は東京大大学院教授の八田秀雄さん(65)＝写真＝です。選手と並走してめいっぱいに激励する姿にネット上は称賛の嵐となりました。話題の「給水おじさん」をたずねました。

竹橋の窓辺から

編集後記

「米国の黄金時代が今まさに始まる」。20日の就任演説で、トランプ米大統領は宣言しました。「米国第一」を掲げ、外国製品への関税引き上げ、「パリ協定」や世界保健機関(WHO)からの脱退表明など、国際協調に背を向ける姿勢も鮮明にしています。日本はトランプ政権とどう向き合えばよいのでしょうか。第2次トランプ政権の動きは毎日新聞デジタルの特集「トランプ政権」でどうぞ。(木村葉子)



毎日新聞